



# 子どもの事故の防ぎ方



子どもの命を守るのは大人の責任です。

事故防止には、最大限の注意を払い、命に関わるような事故は絶対に防がなければなりません。

子どもの目線で見回して、危険なものがないか常に確認しましょう。

子どもからできるだけ目を離さないようにすることが大切です。

月齢・年齢	起きやすい事故	予防のポイント
新生児～6か月	ちっそく 窒息事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>●敷布団はかためのものを選びましょう。</li> <li>●タオルや掛け布団で赤ちゃんの顔を覆わないように気をつけましょう。</li> <li>●添い寝をしながら授乳をしないようにしましょう。</li> <li>●うつぶせ寝をさせないようにしましょう。</li> </ul>
	転落事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ベッドの柵は必ず上げておきましょう。</li> </ul>
7か月～11か月	転落・転倒 (縁側・玄関・ベビーカー・階段からの転落など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ハイハイやつかまり立ち、つたい歩きなどができるようになると、いろいろな事故が起こりやすくなります。子どもから目を離さないように気をつけましょう。</li> </ul>
	やけど・誤飲・中毒	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの身の回りや手の届くところに誤飲ややけどにつながるようなものは置かないようにしましょう。</li> </ul>
1歳～6歳	溺水(おぼれる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●浅い水でもおぼれることがあるので、浴槽の水を全て抜いておきましょう。</li> <li>●お風呂のふたの上で遊んだりするので、お風呂場の扉には鍵をかけましょう。</li> </ul>
	転落事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ベランダに踏み台になるような物を置かないようにしましょう。</li> </ul>
	誤飲・中毒・交通事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>●危ないことをしたら、きちんと叱り、規則とマナーを教えましょう。</li> <li>●外出時、危険な場所では手をつなぐなど、子どもから目を離さないようにしましょう。</li> </ul>